

「安全で安心して生活できるまちづくり」の推進について



広島市消防局長 勝田 博文

広島市は、西部・北部・東部を緑豊かな山々に囲まれ、南部は多島美を誇る波静かな瀬戸内海に面し、清らかに流れる太田川、瀬野川などの豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、毛利輝元による1589年の広島城築城以来、中国地方の中心的な都市として発展してきた「まち」です。

その「まち」は、人類史上初めての原子爆弾の投下により、市街地の大半が廃墟と化しましたが、平和記念都市の建設を進めてきた先人の努力により、今では世界の人々から「平和の象徴」、「希望の象徴」として認められるまでになっています。

本市では、「200万人広島都市圏構想」を提唱し、広島広域都市圏を構成する他の24市町と共に、それぞれの強みを生かしながら、圏域全体が持続的な発展をしていくまちづくりの実現、深化に取り組んでいます。この「200万人広島都市圏構想」を踏まえ、昨年6月には、新たな広島市総合計画を策定し、「世界に輝く平和のまち」「国際的に開かれた活力あるまち」「文化が息づき豊かな人間性を育むまち」という三つの視点に沿ったまちづくりを着実に進めていくこととしています。

消防局におきましては、この計画に基づき、広島広域都市圏の近隣市町と連携した消防体制の充実を図るほか、「災害に強い組織体制の整備」を進めるため、様々な取組を行っています。

具体的な取組として、令和3年度においては、増加傾向にある救急需要に効果的に対応するため、救急需要の高い平日・日中の時間帯に出動する「日勤救急隊」を新たに創設し、本年4月19日から運用を開始しました。なお、この日勤救急隊は、職員のワークライフバランスや働き方改革の推進も、創設目的の一つとなっています。

更に、災害対応能力の向上のため、本市佐伯区にある西風新都訓練場に新たに危険物火災対応訓練施設、土砂災害等対応訓練施設など、実災害に近い環境下での訓練が可能となる訓練施設の追加整備を予定しているほか、国の動きを踏まえた機能別消防団員制度の導入や火災原因調査業務の高度化への具体的な検討を行うなど、消防体制の充実に向けて取り組んでいるところです。

また、新型コロナウイルス感染症への対応については、職員個人の健康管理の徹底や職場内の感染対応マニュアルとして「広島市消防局新興感染症等に係る業務継続計画」を策定したほか、国の通知等を踏まえた救急現場での出動隊員等の感染予防対策を徹底するなど、組織を挙げて危機管理体制の強化に努めています。

最後に上記の取組のほか、広報を充実させることで、市民に消防行政に対する興味や関心を持ってもらい、更なる防火意識の高揚を図るため、消防局の顔となるマスコットキャラクターを公募で決定したほか、広島市消防局をPRするための動画を制作し、この4月21日に、広島市公式チャンネル（YouTube）で公開しました。

今後も引き続き、市民の誰もがいつまでも住み続けたいと思う「まち」、訪れた誰もが住みたいと思う「まち」となるよう、職員一丸となって、「安全で安心して生活できるまちづくり」の推進に全力で取り組んで参ります。



広島市消防局
マスコットキャラクター
【もみみん】



【PR動画の一コマ】